



# 禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

No. 322

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL: 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1部500円

## 世界中のポイ捨ては4兆5千億本！ 環境を汚染するタバコの吸い殻

### ～飲料水もニコチンで危険な状況に～

タバコやゴミの「ポイ捨て問題」は、全国紙・地方紙を問わず「投書欄」でもっとも多く取り上げられているテーマではないかと思えます。この問題について、これまでは“美観”という視点での投書が多かったのですが、最近の調査報道で、捨てられたタバコやゴミが清掃工場で燃やされ、大気汚染の原因となり、また排水溝から河川・湖沼・海に流れて、水も汚染していることが確認されてきました。

サイエンスライターの石田雅彦氏がこの問題を重要視し、また中久木一乗氏や仙台の齋藤由美氏、大阪八尾市の原山たろう氏からも寄稿頂きましたので「ポイ捨て問題特集号」としてお届けします。皆さまのご意見もお寄せ願えれば幸いです。(渡辺文学)

### ヒ素も検出 ポイ捨てタバコ

サイエンスライター 石田 雅彦



道を歩いていると、ポイ捨てされたタバコの吸い殻をよく見かける。街の美観を損ね、清掃費用がかかるだけではなく、タバコの吸い殻自体に強い毒性があり、最近になって環境への負荷が問題視されるようになってきた。

地球環境に対するタバコの吸い殻汚染はどれくらい深刻なのだろうか。

#### ■土星まで届くタバコの吸い殻

世界では毎日、約9億3300万人がタバコを吸っている。地球人口の増加率は、喫煙率が下がってきていてもそれを凌駕し、特に途上国で喫煙者の実数が増え続けている。

タバコがポイ捨てされる数はどのくらいだろう。毎年、世界では約6兆個のタバコの吸い殻が生まれ、そのうちの4兆5000億個がポイ捨てされ、タバコの吸い殻やタバコ由来の廃棄物は、世界の海岸で清掃された総廃棄物の19～38%と見積もられている。

フィルターの長さを3センチとして4兆5000億個を並べると、地球から土星までの距離に相当する。1年のタバコ生産量の3/4が吸い殻としてポイ捨てされているわけだから、年間(2017)の販売数量が1455億本の日本の場合、約1091億本がポイ捨てされていることになる。

『禁煙ジャーナル』主宰の渡辺文学氏は、2019年1月20日から約30分の散歩がてら、毎朝欠かさず近隣である京王線芦花公園駅周辺の吸い殻拾いを行っている。同氏がこれまでに拾った吸い殻の本数は2万7千本(2020年7月19日、450回まで)を上回ったという。

タバコの吸い殻は、主にタバコ葉の部分とフィルター部分に分けられる。環境中に捨てられた場合、雨水で濡れたり河川に存在中、タバコ葉の部分は分解され、フィルター部分と切り離されることが多い。

フィルター部分は、そのままの形で環境中に存在し続ける。タバコのフィルターはどれくらい長く環境中に残存するのだろうか。ある研究によれば、フィルターは2年経っても38%ほどしか分解されず、素材にもよるが完全に分解されるまでには2.3～13年ほどかかるようだ。

—\*1面からの続き—

■環境を汚染するタバコの吸い殻

こうしてポイ捨てされたタバコの吸い殻だが、タバコ自体に健康への害があるように、廃棄物には毒性の物質が濃縮されていると予測される。

信州大学の研究グループ（森脇洋教授ら）が調べたところ、ポイ捨てタバコの吸い殻から、ニコチンのほか、ヒ素、鉛、銅、クロム、カドミウム、発がん性物質を含む多環芳香族炭化水素が検出された。

この研究調査では、大学周辺の道路（3.2kmの周回）を歩き、ポイ捨てゴミの分布地図を作成して1ヶ月間の1kmあたりに採取されたポイ捨てタバコのゴミから何mgの汚染物質が検出されるかを溶出試験（試料を水と混ぜて固形分をろ過により取り除き、得られた液を分析する）などで調べた。

つまり、上記のヒ素、ニコチン、重金属類、多環芳香族炭化水素は、1ヶ月という期間、1kmの距離で採取されたものからの有害物質の総量ということになる。

タバコ由来の毒性物質で、ニコチンや重金属類、多環芳香族炭化水素が出るのは予想できるが、この中では特にヒ素が重要だろう。ヒ素は改めて言うまでもなく猛毒の物質で、数多くの薬害や殺人事件にも登場することで広く知られている。

この調査研究の溶出試験では、環境基準\*以上の0.041mg/Lという量のヒ素が出ている。

\*《環境基準=0.01mg/L以下であること》

また、ポイ捨てされたタバコの吸い殻の重金属類の含有量としては、1ヶ月間の1kmあたりカドミウム0.02mg、銅1.7mg、鉛0.59mg、クロム0.15mg、ヒ素0.81mgが検出された。

紙巻きタバコにヒ素が含まれているのは確かだが、これだけ多くの量が検出されるのはどうしてだろう。

研究を主導した森脇教授もヒ素が検出されたのは意外だったという。その理由について、タバコの吸い殻には灰が多く混ざっており、灰を水に混ぜると水はpHが高くなる。pHが高くなると、ヒ素が溶出しやすくなり、タバコ中の微量成分であるヒ素が検出されたのではないかと考えている。

研究結果の中のニコチン（3.8mg/L）は、明らかにタバコ由来の成分だろう。ニコチンも生物にとって有害な物質であり、タバコの吸い殻から環境中へ拡散する危険性がある。

多環芳香族炭化水素も平均0.032mg（1ヶ月/1kmあたり）検出されたが、道路脇の土壌から検出された多環芳香族炭化水素はタバコの吸い殻由来かどうかははっきりしなかった。



●タバコ会社に送りつけたいタバコの吸い殻

■飲料水がニコチンで汚染される？

森脇教授は、タバコのポイ捨ては、行為としては小さな不法投棄だが、それが積み重なれば環境汚染問題になる可能性があると考えている。ただし、ポイ捨てタバコが現状でどれだけ環境に悪影響を及ぼしているかという点について、さらなる研究が必要だという。

この研究では、タバコの吸い殻のゴミ分布地図を作成しているが、同じような地図を各地で作成し、ポイ捨てタバコが多い箇所でもなぜポイ捨てが多くなるのかその原因を探ることで、ポイ捨ての多い地点に灰皿やゴミ箱の設置を重点的に行えば、効率いい対策ができるのではないかとという。

タバコの吸い殻やフィルター毒性について調べた研究もある。米国のサンディエゴ州立大学などの研究グループは、タバコを吸っていないフィルター単独、タバコを吸った後のフィルター単独、タバコを吸った後のタバコ葉とフィルターで、それぞれ海洋性のイワシの仲間と淡水性のコイの仲間を使って影響を調べた。

各種の溶出液中に2種類の魚を20匹入れ、48時間後の生存率を比べたところ、いずれでも毒性が表れ、1L当たりの吸い殻の数が増えるほど生存率が悪くなった。特に、タバコを吸わない単なるフィルター単独でも毒性があったことが驚きだ。

また、ドイツのベルリンでタバコの吸い殻を採取し、ニコチンの濃度と毒性を調べた研究もある。ベルリン工科大学の研究グループは、雨が降った後、水たまりにおけるタバコの吸い殻からのニコチンの溶出や降雨によってタバコの吸い殻がどのように移動するかを調べた。

その結果、降雨による水たまりにはタバコの吸い殻由来のニコチンが27分で半分の量という具合に急速に溶出し、1L当たり2.5mgの濃度となった。研究グループは、たった1本のタバコの吸い殻が1000Lもの水を生態系への影響がないとされる濃度（予測無影響濃度）を超える値まで汚染する危険性があるという。

**タバコ&ゴミのポイ捨てをやめさせよう！**

# ポイ捨ては犯罪だ！

原山たろう

## ■タバコ大手3社に質問

筆者は、タバコの吸い殻問題についてタバコ会社3社（日本たばこ産業、フィリップ・モリス・ジャパン、プリティッシュ・アメリカン・タバコ）に対し、質問をした。回答を得られたのはフィリップ・モリス・ジャパンのみだった。

同社によれば「たばこフィルターは、木材セルロースから作られるセルロースアセテートでできています。自然環境にもよりますが、フィルターの分解速度は1ヵ月から15年かかると言われています。その過程で、残留物が土壌に染み出したり、分解途中の吸殻を動物が間違えて食べたりするリスクがあるため、吸殻をむやみに捨てることをやめ、成人喫煙者の方は、責任をもって処理する必要があると考えています」とのことだった。

また、タバコの吸い殻で最近増えている加熱式タバコのアイコス（IQOS）に使用されているスティックのフィルターについても質問した。

同社によると「ヒートスティックのフィルターの一部には、バイオポリマーフィルムフィルター（サトウキビやデンプンから得られた世界で最も広範な生体高分子の一つであるポリ乳酸で作られている）を採用し、エアロゾル（蒸気）から余分な水蒸気を取り除き、エアロゾル（蒸気）の温度を低下させています。PMI（フィリップ・モリス・インターナショナル）によってその使用の適合性について評価され、IQOS使用中にバイオポリマーフィルムから放出される有害性成分物質は特定されませんでした。いずれにしても、ポイ捨ての防止は重要と捉え、喫煙者へのコミュニケーションを通じて、気づきや行動変容を促す啓発活動の二つの側面から働きかけることが、重要であると捉え、今後もマナー啓発活動に取り組んでいきます」とのことだった。

誠実に回答をいただいたフィリップ・モリス・ジャパンには感謝するが、タバコの吸い殻1本が大量の飲料水を汚染し、環境へ深刻な悪影響を与えるかもしれないのだ。年間1000億本以上の吸い殻がポイ捨てされる日本、そして飲料水、環境は果たして大丈夫なのだろうか。

【いしだ・まさひこ＝横浜市立大学医学部大学院循環制御医学教室】

### 《ゴミのポイ捨ては犯罪》

「ポイ捨て」とは、ゴミの不適切な処理方法の一つで、対象物が小さい場合の俗称である。シンガポールやタイでは違法行為として罰金刑の対象となる。日本においても各種法令（廃棄物処理法、軽犯罪法など）に抵触する違法行為である。（編集部）

現在ポイ捨てゴミの問題は、世界遺産に登録され日本の象徴でもある富士山でさえ後が絶たなくなっています。

また日本の街中の川から海へ流れ出たポイ捨てされたゴミは、ハワイ沖からアメリカ西海岸へ行き、冬には一部が南下し、石垣島・宮古島へ大量のゴミが流れて行きます。

## ■最も多いタバコ関連ゴミ

街中でよく目にするゴミは現在タバコ類（吸い殻、箱、ライター）に関するゴミが一番多く、次にガム類です。犬のフンもそうですが踏むと気持ちの良い物ではなく、特に視覚障害を持った人達にとっては回避しにくい嫌な物です。

一つのゴミがポイ捨てされると、周りに多くの人がいることで、いずれ誰かが拾うであろうと考え責任が分散され個人の『責任感』が低下します。そして誰も拾わない状況を見て、大ごとではないと判断し『罪悪感』が薄れます。

ゴミが放置され続けると、さらにゴミが捨てられるようになります。『責任感』と『罪悪感』が失われた人が、ポイ捨てをしてしまいます。

ポイ捨てはゴミの不適切な処理方法の一つで日本では軽犯罪法に抵触する違法行為です。

## ■何より重要な清掃活動

軽犯罪の精神的ハードルが下がると重犯罪の精神的ハードルも同時に下がります。放置されたゴミが軽犯罪の温床になり、やがて重大な犯罪が起こる可能性が高くなります。

タバコが、その最初の一つになりやすいと考えています。また放置ゴミが多いと地域のコミュニケーションが希薄と感じられ、オレオレ詐欺、災害発生時でも心配な空き巣などの窃盗が発生しやすくなります。防ぐためには、犯罪遂行時に認識させるリスクを増やす方法が必要です。防犯カメラの設置やパトロール活動、そしてなにより清掃活動が必要です。

## ■子供たちに大人が手本を

自分しか行動する人がいないという意識を持つことが重要です。子供は大人の行動を真似ることで学習し成長していきます。身近な場所がゴミや落書きなどで汚されたりすると怒りや恐怖や羞恥や悲しみなど不快感を与えてしまいます。他人への思いやりが大切になってきます。

なかなか子供達に教えるには難しい課題ですが、ゴミ拾い活動を通して学んで欲しいですね。

【大阪八尾市でごみ拾いボランティアを実施中＝ツイッターで随時その状況を伝えています】

# タバコが見えない社会を！

～不法投棄の吸殻をなくそう！～

御成街道ゴミ狩り駅伝チーム  
中久木一乗



喫煙がヒトを含め地球に有害無益であることが科学的に明らかとなり、国際条約(FCTC)を作って、地球規模で「タバコのない社会の実現」に向かって進んでいる中であって、日本の歩みが遅いことは明らかだ。

その解決に向かって、法律や条約でタバコ規制を進めてきた多くの先人の大きなご苦労に深く感謝したい。未成年者を守る、受動喫煙から守る、あるいは禁煙したい人を支援する……どれも素晴らしい活動であり、大きな成果を上げている。

## ■役に立つ「吸い殻清掃」運動

しかし、どの方策も、正面からタバコを無くそうという運動ではない。悪代官の隙を探して、小作人が知恵を絞っている段階に見える。

確かに長年にわたり構築された「悪徳商人と悪代官がつるんで領民を苦しめる」が如き構造は頑強だ。何とかして「タバコを見せない、売らない、作らない」と言った核心に迫る活動は出来ないのか！一従来多くの先人が考え、挑戦しながら、悪の「黒いつる」があまりにも強く、断ち切る糸口が見つからなかったのが現実だ。

「吸い殻清掃」はかなり遠回りではあるが、本格的タバコ減らしに役立つと考えている。

## ■増えている「吸い殻」

喫煙率の低下、路上喫煙禁止などで路上の吸い殻は減少したように見えるが、実は街中の吸い殻は側溝から海岸に流れ着き、そこでは吸い殻数は逆に増えているという(石田雅彦氏)。

全国的には完全な排水側溝のある道路は少なく現実には多くの路上に沢山のタバコ吸い殻がバラ蒔かれている。その状況はまるで「世の中にはタバコがたくさん存在するのが当然であり、それが普通の社会である」と思わせる舞台装置のように感じる。特に未成年者がこの状況に何の疑問も抱かないままで成長してゆくことは恐ろしい。

一般に、日常身の回りに溢れているものを、無くす！、止める！—ということは、難しい。しかし、喫煙が健全な人間生活に害のあるものと分かった以上、諸外国で始まったように、喫煙する姿

や、吸い殻を含めタバコとその箱を、特に未成年者の目に日常的に触れないようにすることは健康教育上、基本的な重要事項であろう。ポイ捨てされた吸い殻を清掃することの意義はここにあると考える。単なる道路の清掃だけではない。

## ■JTの偽善的な取り組み

タバコ会社は、タバコが日常に溶け込み、何の疑問もなく消費してくれることを願っているが、最近のタバコ批判をそらすために「タバコ煙の害は明らかでないが、ゴミは問題がある」と認め、清掃活動(グリーンボード)を行っているが、これはほんの御茶濁し偽善的活動で、本腰は入っていない。

タバコ会社は、吸い殻であってもタバコというものを社会に広くバラ蒔いて人目に触れさせ、タバコというものを「普通に社会にあるものとして国民に刷り込んでおきたい」と考えているからである。先進大企業が本気で取り組みれば、吸い殻処分問題は簡単に解決できるはずで、タバコ会社は、世の中でタバコが常に目につくことが重要と考えている。

公の場、職場、路上に続き、飲食店における禁煙は人道的に当然であるのに、屁理屈と謝金を投入してこれらの喫煙規制に反対するのは、喫煙者のためではなく、タバコが多く国民の目に触れなくなることを恐れているからである。

タバコが目につかない道路は、タバコのない社会への近道の一つです。

## ■子どもたちへの教育効果

心無い喫煙者が捨てる莫大な吸い殻を拾って歩いても多勢に無勢のようだが、ブロークウインドウ理論で、吸い殻が多いと捨てる人が増え、少ないと捨てる人も減る。吸い殻だけでなく、ごみを捨てる人も減り、そのキレイになった道路を使う人の心もキレイにする。

特に子ども達への影響は大きい。ゴミ環境での教育と清潔環境での教育効果は大きく違う。その変化にはかなりの時間が必要だが、数値化して社会に訴えることで効果が期待できる。千葉県内における、そのような活動を二つ紹介したい。

## ■東金市・梅室政司氏の取り組み

東金市の梅室政司氏は2010年から「東金駅をきれいにする会」「クリーンビーチの会」を結成、一人で活動を続け、2013年から「お成り街道ゴミ狩り駅伝」を主管している。

雨の日以外は毎朝1時間、JR東金駅周辺を清掃活動している。東金は地方都市で人口は減少気味だが、城西国際大学があり、学生の町でもある。

この駅周辺を質素でもきれいに保つことは学生への教育効果は大きいモノがあり貴重だ。

6月の清掃活動は雨天が多く11日間だったが、

—\*5面に続く—

## —\* 4面からの続き—

活動時間は平均64分で、タバコ関連は、一日平均吸い殻が104本(76~276)、パッケージが1.6箱で、その他、3.5kgのゴミを回収している。

※(今後データをまとめて発表予定)

## ■八千代市・辻丸卓美氏の取り組み

八千代市の辻丸卓美氏の活動はもっと古く、22年前から「お世話になっている道路に感謝して」と、一人で清掃活動を始めた。

雨の日を除いて隔日で、退職後はほぼ毎日、4kmの道を2時間かけて清掃し、市民に気持ちよく利用してもらう(ひいては道の利用者の衛生教育になる)活動を続けている。

八千代市は、今も人口が伸びている若い人の多い街で、児童・生徒・学生はもちろん、京成八千代台駅を利用する青年・壮年・中年の人たちへ、タバコの見えない環境を提供している。

なお6月の清掃は雨天が多く10日間だったが、一日平均でタバコ関連は、吸い殻が184本(84~352)、パッケージが5箱で、その他平均3kgのゴミを回収している。

5年前から「お成り街道ゴミ狩り駅伝チーム」にも入って、今は個人活動のみだが、記録写真を撮り、梅室さんと情報交換をしている。

※(近日中に記録を整理し発表予定)

【なかくき・かずのり=歯科医師/タバコ問題を考える会・千葉顧問】

\*「御成街道ゴミ狩り駅伝」は、1614年に徳川家康の「鷹狩り」のために造られた御成街道を舞台にして行われている清掃活動である。

街道開通400年を記念して、回り道を含め全長42kmを四つの区間に分け、年に1回開催。2020年は会員が個人的に地元で活動している。

## 吸殻拾い1年半の軌跡

渡辺 文学

昨年1月20日から、住まいの世田谷区、京王線・芦花公園駅周辺の「吸い殻拾い」を始めてから、7月19日に「450回」となった。総本数は27,011本で1日平均60本となっている。

私鉄の小さな駅の周辺で、朝の散歩の際の僅か30分にこれだけの本数が落ちているということは日本全国を視野に入れた場合、一体何千万本が捨てられているのか。

タバコ会社とコンビニ業界は「吸い殻買い取り制度」を設けて、1本1円でいいから引き取ってもらいたい。街と道路の美観を損ない、河川・海を汚染している“タバコポイ捨て問題”の9割以上は解決するはずだ。【わたなべ・ふみさと】

## 仙台市とアレマキャンペーン

仙台市 斉藤 由美

仙台はとても綺麗な街です。2018年の羽生結弦凱旋パレードでは、ボランティアが「拾うゴミが無い」と驚いたほどです。もちろん羽生ファンのマナーが素晴らしかったのですが、比較的いつも綺麗です。町内会も月に一度は朝掃除を行いますし、私も参加します。

企業の多くも掃除の日を決め、その日は夫も早く出社し道路掃除をします。

画期的なのは仙台市が1999年から始めた「アレマキャンペーン」です。ポイ捨てを見たら「あれま!」と驚く、という活動です。注意するには勇気が要りますが、驚くのは簡単です。

私の舅は喫煙者でしたが、叫ばれて恥ずかしい思いをさせては可哀想と、携帯灰皿を持たせました。その頃はタバコがそんなに悪いものだとは知りませんでした。舅は2004年に癌で死にました。

市が年2回行う「アレマキャンペーン」の結果をみると、半数以上がタバコ関連ゴミです。

罪滅ぼしのつもりでしょうか、JT東北支社、日本タバコ社僚会、仙台タバコ愛好会、仙台タバコ販売組合、PMIが常連で、小学生や高校生と一緒にゴミ拾いをしています。

一昨年、環境局にFCTC違反ではないか、と問うと返事がこなくなりました。

その後もタバコ産業の社会貢献(CSR)の様子は市のホームページで紹介されています。

※(今年はコロナ騒動で中止でした)

これからもタバコ産業は「ポイ捨て」をマナーの問題、喫煙者の問題と位置づけ、自分達は善人の顔でこの活動に参加し続けることでしょう。

私は、タバコ産業と一緒に社会貢献をしたくないので、それには参加しませんが、個人でアレマ活動を続けています。最近も排水溝に吸い殻を入れる瞬間を見てその都度叫びました。果たしてポイ捨てはやめよう決心してくれたのでしょうか。

今度は周囲に人がいないのを確認してから捨てよう、と思っではないかしたら。伊達な仙台人は見た目を気にします。街は綺麗でも、仙台の排水溝は物凄く汚れているのでは。新しもの好きも災いして、ゴミの少ない加熱式タバコに飛びつく人も多い。事実、仙台のアイコス利用者数は日本一です。

タバコを美観だけの視点で考えても、問題は解決しません。禁煙・卒煙推進こそが、タバコゴミ問題、さらには喫煙問題の解決策です。

【「仙台のS」こと：さいとう・ゆみ】

# 第14回学術総会を前に

—イエローグリーンキャンペーンを提唱!—

日本禁煙学会学術総会実行委員長  
齋藤 道也

今秋11月14日(土)第14回日本禁煙学会学術総会を大会テーマ:「全ての人にTobacco-freeな未来を!~福島からの発信~」として福島県郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大から、開催方法を会場開催1日の14日(土)のみに短縮し、WEBでの講演発表を充実させたHYBRID開催となります。

新型コロナウイルス感染重症化と喫煙の密接な関連を始めとしてタイムリーな研究、情報を発信共有できますよう、今後の感染の収束動向や国、自治体の指導に従い、新たなコロナ感染を起こさないよう配慮した学会運営の準備を鋭意進めております。

## ■幅広い県民運動としての取り組み

この学術総会開催と改正健康増進法制定をにあわせ、第14回日本禁煙学会学術総会実行委員会は今年から受動喫煙防止対策の県民運動として県医師会、自治体、多くの企業、賛同団体とともに県民全体に働きかける「イエローグリーンキャンペーン」(リボン、ライトアップ活動)を開始し、世界禁煙デー、禁煙週間に合わせて県内各地で多くの活動にご協力をいただきました。

イエローグリーンは、受動喫煙をしたくない・させたくない、タバコの煙から大切な人を守りたいという気持ちを表す色です。

これは佐世保市民のアイデアで2003年から始まったアウェアネスリボン運動をスタートとして、京都、広島、福山など全国各地でそれぞれの地に適するアイデアを駆使した活発な活動が展開されてきました。

特に京都では以前から受動喫煙防止のシンボルカラーとしてイエローグリーンを提唱し、ライトアップを国内で初めて行いました。

## ■内堀知事にバッジを手渡し

今までの各地域の活動を背景にして始まった今回の福島の取り組みは、全県的活動としては国内で初めてのこととなり、6月22日、佐藤武寿福島県医師会長(第14回禁煙学会学術総会大会長)と馬場義文福島県医師会事務局長(学術総会参与)と共に「イエローグリーンキャンペーン」の協力依頼のため内堀雅雄知事を訪問しました。

福島県医師会が作成したイエローグリーンリボンバッジを手渡すと共に、キャンペーンの意義、方針に対し内堀知事は熱心に耳を傾けていただきました。



●内堀知事(右から二人目)にバッジの模型を手渡す佐藤武寿医師会長。左側が齋藤道也氏。

私たちは秋の学術総会福島大会、さら到来年以降も活動を継続、拡大していきたいと思っております。

福島で新しい形での開催となる第14回日本禁煙学会学術総会へのさらなるご協力をお願い申し上げますと共に「イエローグリーンキャンペーン」が全国各地の有志によってその輪が広がっていくことを願っております。

【さいとう・みちや=福島県医師会常任理事/  
いわき市医師会副会長/日本禁煙学会理事】

福島民報 2020年(令和2年)6月23日

県医師会、リボンバッジ寄付  
県と県議会に 受動喫煙防止訴え

内堀知事にイエローグリーンリボンバッジを手渡す佐藤氏(左から2人目)。左は齋藤氏、右は馬場氏

県医師会は二十二日、受動喫煙をしない、させないという意思を周囲に伝えるイエローグリーンリボンバッジを県と県議会に寄付した。

佐藤武寿会長、齋藤道也常任理事、馬場義文事務局長が二十二日、県庁で内堀雅雄知事にバッジを手渡した。内堀知事は「県としても受動喫煙防止に向けた取り組みを進めたい」と述べた。

文事務局長が二十二日、県庁で内堀雅雄知事にバッジを手渡した。内堀知事は「県としても受動喫煙防止に向けた取り組みを進めたい」と述べた。

## 【第14回日本禁煙学会学術総会】

全ての人に Tobacco-free な未来を!

・2020年11月14日(土)・15日(日)

・ビッグパレットふくしま(郡山市)

・主催:日本禁煙学会

・共催:福島県医師会/歯科医師会他

・後援:福島県/福島市/郡山市他

《学会事務局》

E-mail: jstc2020fukushima@gmail.com

## 2019年無煙映画大賞決まる

—作品賞は「新聞記者」—

日本禁煙学会無煙映画審査担当

見上 喜美江

2019年上映の「無煙映画」について下記の作品が「無煙映画大賞」に選定されました。最後にコロナ禍と映画の現状について記しましたので参考にしてください。

- 【作品賞】 「新聞記者」藤井道人監督
- 【女優賞】 吉岡里帆（よしおかりほ）  
「見えない目撃者」森淳一監督
- 【男優賞】 北村匠海（きたむら たくみ）  
「君は月夜に光り輝く」月川翔監督
- 【ファミリー賞】  
「今日も嫌がらせ弁当」塚本連平監督
- 【話題賞】 「翔んで埼玉」武内英樹監督
- 【特別賞】

「誰がために憲法はある」井上淳一監督

## ＜推薦理由＞

\*作品賞：「新聞記者」＝現在東京新聞記者として活躍している望月衣塑子記者の原作。正義感に燃えて腐敗を公にしようとする記者と、政権の不都合なニュースをコントロールするエリート官僚の葛藤を対峙させ、報道とは？メディアとは？を問いかけた秀作。

\*主演女優賞：吉岡里帆＝交通事故で視力を失った元警察官が、連続少女誘拐事件に関連する情報を耳で「目撃」しますが、警察では一蹴され、協力者の少年と出会って犯人を追い詰めるという難役を聡明に演じた。

\*主演男優賞：北村匠海＝不治の病で外に出ることができない女子高生に変わって彼女が体験したいことをスマホで撮影しながら報告する「代行体験」を繰り返すことで、次第に彼女に惹かれていき「出会ったこと、愛すること、そして生きることの大切さ」に気づいて苦しむ青年を抑えた演技で好演。

\*ファミリー賞：

「今日も嫌がらせ弁当」塚本連平監督

会話がなくなってしまった高校生の娘と毎日のお弁当作りを通じて必死に関係を保とうとするシングルマザーの姿を八丈島の豊かな自然を背景にし、コミカルにそして可愛いキャラ弁（キャラクター弁当）をアクセントに楽しく描きました。

\*話題賞：「翔んで埼玉」武内英樹監督

海のない埼玉県を自虐的に描いた魔夜峰央原作の1982年のコミックを二階堂ふみとGACKTの主演で実写映画化。「自虐ネタ」を代表する作品で出身県のアイデンティティをめぐるやり取りが全国的に人気となりました。

\*特別賞：

「誰がために憲法はある」井上淳一監督

松元ヒロ原作で一人語り「憲法くん」を基に、87歳になる女優の渡辺美佐子が演じた様子と、渡辺が仲間の女優たちと長い間続けてきた原爆朗読劇が幕を閉じるまでの経緯を描く。あらためて私たちの生活は「憲法」があるからこそ守られているのだと再確認させる作品。

【汚れた灰皿賞（モクモク賞）】

- ・「さよならくちびる」塩田明彦監督
- ・「最高の人生の見つけ方」犬童一心監督
- ・「ダイナー」蛭川実花監督
- ・「カツベン！」周防正行監督

## ■コロナ禍と映画

2月から3月にかけての国内でのコロナ感染の拡がりの中、そして緊急事態宣言を過ぎ、映画の現実を報告します。

3月10日に那覇市から自宅に戻りました。

沖縄では普通に映画を鑑賞していましたが、3月になると入場者が減ってきました。帰宅後、3月中頃に隣町にあるミニシアターへ行きましたがこのときは普通に上映していました。

しかし、4月になると座席の間隔を開けるようになり、コロナ対策が始まりました。

4月14日、やはり隣町にあるシネマコンプレックス（以下シネコン）で緊急事態宣言前にギリギリ鑑賞できましたが、このときはすでに個人レベルで自粛が始まっていたようで、シネコンのある大型商業施設の駐車場はガラガラで映画館のロビーにもほとんど人がいませんでした。

4月16日に緊急事態宣言が出てからは、解除される5月25日まで全ての映画館が休館しました。

そんな中、映画文化を守るため映画界では様々な取り組みがなされ「精神0」（想田和弘監督）を自宅のパソコンで「仮設の映画館」を利用して鑑賞しました。「ミニシアターを守るクラウドファンディング」も大きな話題となりました。

その後、6月になってやっと自粛ムードが緩やかになり、ミニシアターへ行きましたが、座席は三分の一となり完全予約制になりました。

シネコンも営業をはじめましたが、新作は少なく、古い名作を上映し、なかでも「一生に一度はスクリーンでジブリを観よう キャンペーン」は、おなじみのジブリ作品をスクリーンで見る体験ができ、ジブリの魅力を再発見しました。なお「フーテンの寅シリーズ」も上映していました。

7月23日の連休からシネコンでは新作を次々封切るようで楽しみです。

【みかみ・きみえ＝日本禁煙学会評議員】

Mail:susu-kimi@nifty.com

映画評ブログ：無煙映画を探せ

## 喫煙者が多い日本球界②

スポーツライター 広尾 晃

30年以上前でも世界のアスリートは、たばこを吸わなかった。日本に来る外国人選手の多くが、ロッカールームで喫煙する日本選手にカルチャーショックを覚えたという。

ゴルフ、大相撲の例を見てもわかるように、その時期、おそらく他のスポーツのアスリートも現在よりも喫煙率は高かったはずだ。しかし、スポーツの国際化とともに、他のスポーツでは選手の喫煙は減っていった。

選手たちは海外で「アスリートはたばこを吸わない」ことを身をもって知った。また、たばこは心肺機能を損ね、運動能力を低下させるなど、実害があることも認知するようになった。Jリーグの選手の喫煙者は皆無ではないようだが、日本のプロ野球の喫煙率は、私見だがいまだに50%を超えているのではないかと思う。

プロ野球の春季キャンプ地でも近年、分煙が進んでいる。しかし多くのキャンプ地ではメイングラウンド、サブグラウンド、室内練習場、ブルペンの周辺などいたるところに「喫煙スペース」が設けられている。“喫煙者への配慮”が実際に行き届いているのだ。そういうスペースで、ユニホーム姿の球団関係者と記者やカメラマンが煙をくゆらせながら話す姿もよく見られる

スポーツ紙などの記者の喫煙率もまた高い。

もちろん、喫煙は違法でも何でもない。しかし社会全体が「禁煙」へ動き出している中で、野球界の対応は時代錯誤、ひいき目に見ても「遅れている」と言わざるを得ない。

### ■禁煙できない理由は指導者？

なぜ、日本野球は「禁煙」できないのか？筆者はその根本には「野球指導者の喫煙習慣」があると思う。高校野球の指導者には、いまだに喫煙者が多い。学校そのものが全面禁煙になり、職員室でのたばこはご法度になっても、監督は、喫煙室などで吸っていることが多い。

そういう監督は、選手に対して「たばこを吸うな」と強く言うことができない。日本学生野球協会は、高校球児の不祥事を定期的に発表するが、必ず「選手の喫煙」が上がってくる。ある監督は「昔は『ばれないように吸え』と言っていたけど、今はスマホで撮ってすぐに通報されるから『やめとけ』と言ってるよ」と言った。

さらにいえば、伝統的に「野球と喫煙」の親和性が高いこともあるだろう。少年野球の指導者の中には、吸いながら子どもたちを指導している人がいる。グラウンドでたばこを吸う監督の姿に、

周囲はドン引きしてしまうが、当人はいたって平気である。それを容認する保護者がいるからだ。

子どもたちの付き添いでグラウンドに来て、お茶当番などをする保護者の中には、練習を見ながら喫煙する人がたくさんいる。冬場などはドラム缶で焚火をしたりする。火を囲みながらたばこを吸う人の中には、お母さんの姿もある。

少年サッカーでは「禁煙」は当たり前になっているが、少年野球では連盟や団体があえて「禁煙」を通達しているという話は聞かない。せいぜい「分煙」か「たばこは決まった場所で吸いましょう」というのが精いっぱい。「禁煙」を通達したら、少年野球は成り立たないのだ。

近年の研究では、少年の野球肘（OCD＝離断性骨軟骨炎）が、受動喫煙によって治癒が遅れたり、症状が悪化することが報告されている。整形外科医の中には「野球肘の治療をした子どもを車で迎えに来たお父さんが、たばこをくわえているのを見ると、本当にがっかりする」と嘆く。

残念なことに「野球改革」を目指す指導者の中にも喫煙者はいる。野球界の変革を唱え、新しい指導を志向する指導者が、野球やスポーツとは縁遠い喫煙をやめられないのは、根が深い問題だ。

### ■球界はいまこそ「全面禁煙」を！

今年2月、千葉ロッテマリーンズは「勤務時間中の全面禁煙」を発表した。つまり、それまで「勤務時間中に喫煙していた」ことを隠さずも露呈した形だ。しかし「勤務時間中」であり、それ以外の時間の「禁煙」ではない。

4月1日には近鉄バファローズ、日本ハムファイターズ、楽天ゴールデンイーグルスの監督を歴任した梨田昌孝さんが新型コロナウイルスに感染し、集中治療室に入った。喫煙とウイルスの関連性が完全に証明されたわけではないが、梨田さんも喫煙者だった。志村けんさん同様、症状は重いようだ。日本野球界を代表する指導者の一人だけに、非常に気がかりだ

4月から「改正健康増進法」が施行され、飲食店など屋内での喫煙は原則禁止、指定の喫煙スペース以外では一切できなくなった。条例が施行された東京都では、喫煙店の「喫煙席」もなくなり「喫煙者」の余地はいよいよ狭まっている。

新型コロナによって、おそらく日本人の「喫煙」に対するまなざしは、一層厳しくなるだろう。

「野球離れ」が進行する中、野球界は、いろいろなことが変革できずに足踏みを続けている。「禁煙」は、わかりやすい上にメリットが非常に大きい改革だ。プロ、アマが連携して野球界からたばこを一掃すれば、世間はその大英断に拍手喝さいを送るはずだ。【ひろお・こう】



地方自治体首長殿  
財務・税務(寄附金)担当者様

## 日本たばこ産業(株)(JT)からの寄付金について —国際条約違反の寄付金は受け取るべきではありません—

一般社団法人日本禁煙学会 理事長 作田 学

最近、「新型コロナウイルス感染症」の全国的な広がり之際して「コロナ禍の子育て家庭の支援」「医療支援」などの名目で、日本たばこ産業株式会社(JT)からの寄付金を受け取っている自治体があるという報道に接しています。

しかし、タバコ産業から社会貢献活動(CSR)の一環として自治体が寄附金を受け取る行為は、日本が2005年に批准した「たばこ規制枠組条約」(FCTC)5条3項および13条のガイドラインに違反しています。

このことは、東日本大震災の際にも問題になりました。日本赤十字社や日本財団にタバコ産業から多額の寄付金がありましたが「たばこ規制枠組条約違反」が国際的にも問題となり、すみやかに返却されました。

また、フィリップモリス等から赤十字博物館に寄付金があり、ロイターなどに報道され、これも国際赤十字赤新月社連盟から返却されました。

国際条約に反して、自治体がJTからの寄付金を受け取ることがないようにご注意をよろしくお願いいたします。

2020年7月6日

### 【参考】

#### (FCTC 5条3項ガイドライン)

・締約国は、政府又は公共セクターの政治、社会、経済、教育、あるいは地域関連等のいかなる部門に対しても、タバコ産業又はタバコ産業の利益の増進のために活動している者から献金を受け取ることを許可してはならない。

[https://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/dl/fctc\\_5-3\\_guideline\\_120506.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/dl/fctc_5-3_guideline_120506.pdf)

#### (FCTC 13条ガイドライン)

・地域社会、健康推進、福祉、環境保護などの団体に直接あるいは別のルートを通じて、資金援助や現物支給の援助を行っているタバコ会社もある。このような寄付行為は、本条約第1条g項のタバコ産業によるスポンサー行為に該当する。したがって、このような寄付行為は、タバコ製品とタバコ使用を直接的あるいは間接的に促進奨励するという目的、効果あるいはそれらをもたらす恐れがあるがゆえに、包括的禁止措置の一環として禁止されるべきである。

・タバコ会社は「社会的責任を果たす」企業活動(良好な労使関係や環境保護活動など)をやろうとしているようだが、他の分野には貢献活動をしようとしな。一般市民に「立派な」活動をやっていると宣伝することは、直接、間接にタバコ製品やタバコ使用を推奨する目的、効果を意図して、あるいはそのような期待のもとに行われるのであるから、禁止しなければならない。

### 【出典】たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約(外務省ホームページ)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/who/fctc.html>

## 《メディア・ウォッチング》

■5/25『東京』「妊娠中喫煙で低体重」「環境と子の健康—エコチル調査から」。小野木昌弘論説委員が上島通浩名古屋市立大大学院教授に聞く、という形式。妊娠中に喫煙していると、新生児の体重が125～136グラム少ない、一人ずつで見れば「百何十グラムぐらい」かもしれませんが、集団としてこの差は大きいなど■5/28『週刊文春』飯島勲の激辛インテリジェンス／「コロナとタバコの意外な研究」。飯島氏は完全禁煙を宣言したもののすぐ挫折。その後は「喫煙どこが悪い」の主張をしている。今回は喫煙者が感染すると重症化しやすいという事実を矮小化する情報。喫煙とコロナの感染や重症化の関連を結論づけたり、何らかの対策や方針を並べ立て「いま論文を取り寄せている最中」「タバコが有効打なら、オレの禁煙が有言不実行でも許してもらえるかも」と言いたい放題。「溺れる者は藁をもつかむ」の格言を地で行く喫煙者心理の好見本■6/3『朝日』「受動喫煙防止へ独自の対策進む」。改正健康増進法の施行後に「熱心な自治体」が独自の条例で対策を進めようとしている動き。①美唄市②東京都③千葉市取材。地域医療振興協会・中村正和氏のコメント「日本は受動喫煙の問題が認識されていない」「条例を作るだけでなく、法律と合わせて周知と説明を徹底することで規制が進むきっかけになる」■6/4『毎日』「発言」「たばこ事業法より『規制法』」。本紙渡辺編集長の執筆で、内容は①改正健康増進法や東京都受動喫煙防止条例が成立しても、コロナ禍でその恩恵にあずかれなかった②喫煙は新型コロナで重症化のリスクがある。禁煙を勧めたい③喫煙所は「三つの密」の典型的な場所。撤去するのが望ましい④たばこ事業法を廃止して「たばこ規制法」を制定すべきだ。タバコの監督官庁を厚生労働省にして、喫煙の有害性を国民に伝えるべきだ④死の商人の株を政府が3割も保有するのは国際常識から逸脱。新型コロナ対策を進めるためにも売却すべき⑤タバコ会社とコンビニ各社が話し合い「ポイ捨てタバコ対策」を真剣に考えてほしい。解決策として「1本1円の買い取り制度」を提案したい■6/12『しんぶん赤旗』「たばこ表示規制」「WTO、最終審も『正当』」。豪が世界で初めてたばこの箱にブランドロゴの記載を禁止し、健康被害の写真などを表示させる規制策をとったことに対し、ホンジュラスなどがWTOに提訴していたが、WTOが「規制を正当」と認定したという内容■6/15『読売』「コロナ最前線／ヨハネスブルク」「たばこ販売禁止 不評」「密売横行『喫煙は悪か』反発」。南ア政府が新型コロナウイルス対策の一つとして販売禁止したが①外国産たばこの密輸増大②販売禁止後も感染は拡大③たばこ税減収の課題④

国内のタバコ農家は壊滅の危機⑤「喫煙は悪」かの反発が噴出、といった状況から「不評」と受け止めた特派記者の記事■6/16『神奈川新聞』「新型コロナ県内議員に聞く」。①国と地方の対応②財政悪化への対応③東京五輪の開催について、松沢成文参議院議員を取材。「スモークフリーの五輪をやろうとしているのに、政府の禁煙の呼び掛けは鈍い。WHOは喫煙者は新型コロナで重症化しやすいと言っている」とコメント■6/17『毎日』「くらしナビ」「喫煙に肺炎重症化リスク」。新型コロナで、喫煙者が感染すると肺炎が重症化しやすいという研究報告が相次ぐ中「喫煙がもたらす重症化の仕組み」「禁煙のメリット」について解説。①たばこの有害成分はウイルスに対する防御機能を低下させる⇒東北大・黒沢一教授②線毛は肺内に入ってくるウイルスなどの異物を押し出してくれる機能があるが、線毛がなければ、異物を除去する防御力も弱く、感染が起りやすくなる⇒九州大病院・濱田直樹助教③新型コロナは、「ACE2」と呼ぶたんぱく質に結合して感染が起きるためウイルスへの感受性が高い可能性がある⇒米国の研究者④健康な人なら、禁煙後1週間でニコチンが体内から消え免疫力が上がる。肺機能の低下が著しい人でも、低下のスピードが抑えられ、免疫能力も復活するため、禁煙は早ければ早いほどいい⇒濱田助教■6/17『読売』「たばこ不始末 死者35人」。①東京都内で昨年、たばこの不始末が原因で起きた住宅火災の死者が35人に上り、過去十年で最多②半数近くは「寝たばこ」③東京消防庁担当者のコメント「喫煙者にとってたばこは身近な品で、命に係わる火災が起きるといって危機感を持ちにくいのではないかと。特に寝たばこは危険で、絶対にやめてほしい」いっそのこと「禁煙をしたほうがいいのかも」かもしれない」と付け加えたら、担当者は「戒告」では済まされず、「懲戒解雇」になるんでしょうね(笑)■6/18『東京』「健康まっぷ」「加熱式例外の扱い 職場で高い喫煙率」「紙巻き同様の規制が重要」。大阪大医学部生らの研究内容「①屋内禁煙で喫煙室もないのに加熱式は使用可とする職場が全体の2%あった②屋内禁煙で喫煙室があるのに、喫煙室の外でも加熱式は使用可とする職場が全体の4%あった③加熱式を例外扱いしたそうした職場では加熱式の使用を認めない職場に比べ、喫煙率が紙巻きたばこでも加熱式たばこでも約2倍高くなっていた」を紹介。田淵貴大医師は「加熱式を含めすべてのたばこが規制され、禁煙しやすい環境が整備されることを期待したい」■6/19『日刊ゲンダイ』「役に立つオモシロ医学論文＝青島周一薬剤師」「たばこは月に何本までなら健康リスクを抑えられるのか」。あの「ゲンダイ」か、と色メガネで見てはいけない記事(笑)。米国医師会発

行の機関紙に掲載されていた内容を紹介。「喫煙しない」「毎日喫煙 月600本」「毎日ではないが、月40本」「以前は毎日喫煙していたが、現在は毎日喫煙していない 月75本」というグループごとのリスクを紹介。末尾は「1カ月の喫煙本数が6本以上で死亡リスクの増加が認められ、週に1本までなら健康リスクは小さいと思われませんが、そこまで減らすのであれば、いっそのこと禁煙をしたほうがいいのかもかもしれません」■6/23『朝日』(投書/森島真氏)「新幹線 喫煙ルームなぜ残した」。7月から登場するJR東海の東海道新幹線の新型車両N700Sには「喫煙ルームが残された」として「楽しい旅行用の別のスペースに変える」ことを要望。コロナ禍で騒然の世の中に放った的確な“物言い”でした(笑)■6/23『朝日』(都内版)「路上喫煙の禁止3駅周辺に拡大」「国立市来月から」。「国立市は7月から、条例に基づいて路上喫煙を禁ずる区域を市内にあるJR3駅の周辺に拡大する、という内容」■6/23『福島民報』「県医師会、リボンバッジ寄付」「県と県議会に受動喫煙防止訴え」。県医師会は22日に「受動喫煙をしない、させない」という意思を周囲に伝えるイエローグリーンバッジを県と県議会に寄付した、という内容■6/25『朝日』[生活]「体と心を守る基本ポイント シニアと働く世代へ」。新型コロナウイルスと向き合いながら自分の体と心を守るために何をしたらいいのか、働く世代と高齢者に向け、生活上のポイントをわかりやすくまとめたポスターを、地域医療振興協会がまとめた、という内容。働く世代向けの「コロナに負けない5×3のポイント」では、「運動」「食事」「お酒」「心の健康」「たばこ」の五つのテーマで「たばこ」では「禁煙して感染症の流行に備える」と紹介。中村正和医師のコメント「何歳からでも禁煙すれば、肺炎が重症化するリスクを下げるができる。流行の第二波がいずれ来るならば、いま禁煙を始めることだ」■6/25『朝日』「アイコス巡り5.5億円課徴金」。加熱式たばこ「アイコス」の販売で2年9カ月にわたって割引キャンペーンを続けていたのに期間限定のように宣伝したのは景品表示法違反にあたるとして、消費者庁は24日、フィリップモリスジャパンに対し、5億5274万円の課徴金納付を命じた、という内容■7/2『週刊新潮』「喫煙者は感染しやすい!!」「『コロナ重症化』もタバコのせいにする危険思想」。『週刊新潮』は昔から平山雄博士の受動喫煙の研究やWHOの政策に異をとらえてきた「タバコ産業擁護誌」。

①「免疫学を専門とする」東洋大理工学部・加藤和則教授②「免疫学の専門家である」順天堂大・奥村康特任教授③片田珠美医師(精神科)を登場させたが、この方たちの中には昔からの「新潮社御用達」の方もおられるようです(笑)■6/29『読

売』[編集手帳]。①俳優のユル・ブリナーが肺がんで死去する前に「たばこはやめなさい」とCMで訴えていた②昨今は肺がんの原因など、喫煙の弊害が指摘されることが多い③ニコチン依存症と診断された患者が禁煙を継続するためのスマホ用アプリが、医療機器として7月にも承認される見通しとなった。少しでもアプリが助けになることを願う、というまともな主張■7/2『東京』[健康まっぷ]「健康維持のこつポスターに」「新型コロナ長期化に備え」。(6/25の朝日「生活」欄とほぼ同じ内容の記事)■7/3『産経』「慶大、禁煙治療アプリの長期的な効果実証」。慶応大医学部の福永興彦教授らが禁煙治療用スマホ向けアプリの大規模臨床試験(世界初)で、1年にわたる禁煙継続効果を確認したという内容。呼吸器内科の正木克宜助教のコメント「患者さんの背景はさまざま、個々の日常生活に寄り添った提案や支援が必要。アプリが効果的、効率的な禁煙支援につながることを期待する」■7/3『しんぶん赤旗』[くらし・家庭/タバコよもやま話 ①荻野寿美子]「子どもがニコチン中毒に」。「タバコに奪われた命—父の『闘病MEMO』に寄せて」と「私がタバコをやめた理由(ワケ) —タバコ百害問答」の著者・荻野寿美子氏の執筆で5回連載。第1回では国内タバコ製品の約85%に海外産葉タバコが使用されていること、その葉タバコ畑では貧困家庭の子どもたちが1日の作業時間中紙巻きたばこ約50本分のニコチンを肌から吸収し、急性中毒の症状に苦しみ、また、神経毒系の農薬使用によってがんで亡くなることを紹介「タバコ生産の過程でも子どもたちが涙を流しているのです」と結ぶ■7/11『しんぶん赤旗』[くらし・家庭/タバコよもやま話 ②荻野寿美子]「大人の悪だくみ」。「悪だくみ」の主人公として①米国のタバコ企業の役員がイメージキャラクターの俳優に「肺がんで死ぬ喫煙者の欠員補充だ。中学生くらいをねらえ」と言った②「都子どもを受動喫煙から守る条例」制定時に「タバコ企業が最後まで抵抗した」の二例を紹介■7/9『産経』[健康cafe⑩たばこの害/下島和弥院長]。米国人を対象に、本数と死亡率の関係を調べた研究結果から「週に数本喫煙するだけでも悪影響が相当ある」ことを「週に5~6本喫煙」と書いた30代の女性患者に話すと「それならやめようかな」といいながら帰っていった、というとてもいい話(笑)■7/18『日経』「喫煙者、男性の30%切る」「女性も微減 3年で2.3%減」。厚労省の調査によると、たばこを吸う男性の割合は2019年で28.8%。3年前の調査から2.3%減少し、初めて30%を切った。女性は0.7ポイント減の8.3%。年代別では20代の減少幅が最も大きかったという内容。重要情報なのに「他紙は全くノーフォロー」と本紙・渡辺編集長。【氷飽健一郎】11

漫筆

「またか?!」と思われるかもしれませんが、その「また」です(笑) 何回目になるか数えるのもメンドーだし、いつかこれもパーになることは分かっていますが、それでもやるしかない。それをやっています。お分かりですね。「禁酒」です(大笑) ◆2月からですからもう半年にもなる。とはいえずれダメになるでしょうけど当分は続くと思う。そうです。この禁酒の理由はコロナだからです。中国武漢発の新型コロナは、とうとう世界中に広まってしまった。詳しいことは知りませんがヨーロッパではイタリアが、北米ではアメリカが、南米ではブラジルがこの被害が多いようだ。いずれも大酒飲みが多い国です。というところで考えてしまった◆これって実は中国の狙いどおりなのではないかと。中国の武漢というところには中国の軍事研究所があるということを知ったことがあります。まああの国のことですからそんなものは国中のいたる所にあるのでしようが、その軍事研究所では中国の昔からのヤリカタでさまざまな研究がされているらしい。それが野生の動物を使った実験だ。もちろん、国家機密ですから使われた動物達は処分される。ところがそれが処分されないこともあるのです。前にも書いたと思いますが、さまざまな方法でこの動物達が売りに出されるのだとか。何のためにかといえば食用です。四つ足なら何でも食べる人達ですから。そしてその中の何かが変異してこの新型コロナになったのではなからうかと。もちろんただの憶測です。しかし日本にない危険なモノが日本に入ってきたことを国はもっと真剣に考えるべき

きでしょう◆核兵器がどうのこうのといわれますが、あれはもう「持っているけどつかえない」モノになってしまった。日本のすぐお隣の国が景気よく核実験をやっても、それを怖がる人はいません。使ったら自分達もオシマイということを知っているからです。というところでコロナとお酒の関係だ。これはもうテレビのニュースを見ればお分かりでしょう◆毎日のコロナのニュースは新宿や池袋といったように酒場で起きていることが多い。といってもコロナが酒を好きというわけではありません。当たり前ですね。原因は酒飲みがコロナを恐がらないことだ。落語に出てくる酔っぱらいを見れば分かるでしょう。「てやんでえ、矢でも鉄砲でももってこい!!」というやつです。そんなわけで毎日のニュースは、新宿や池袋の酒場でコロナ感染した酔っ払いばかりだ。これがホントの「お酒真っ暗」だったりしてね(笑)。【高信太郎】



【雑記帳】「新型コロナ」の感染者が増加の一途をたどっています。このような時期にも関わらず「Go To トラベル」を呼びかけた政府・自民党に、厳しい批判の声が上がっています◆「週刊文春」によると、この事業を受託した観光関連の団体から自民党の二階幹事長ら30数名の議員に対し、4千万円を超える献金が行われていたとのこと。放送タレントの松尾貴史氏は「このような間の悪いキャンペーンを張る暇と予算があるなら、観光業者に直接給付して休業などの対応をとってもらう方が感染拡大を防げるのに、理解に苦しむ」とコメントしていました◆10 数年間、毎月行ってきた「無煙社会をめざす定例会」が、開けなくなっています。そこで、岡本光樹都議(弁護士)の事務所がキーテーションとなって4月から「Zoom会議」が開催され、熱心な議論が行われています。7月24日は、6時前から始まった会議が、なんと4時間も。集合住宅の受動喫煙被害の訴えや飲食店の禁煙化の動向、自治体や民間企業の喫煙所や銭湯脱衣所の灰皿問題など、活発な議論が行われました◆タバコのポイ捨てについて、石田雅彦氏から、地球規模の視点での問題追及がありました。ともすれば、小さな問題として

その重要性がなかなか理解されない側面がありますが、なんとかこれを無くしたい、として毎日取り組んでいる方が全国には沢山おられます。私も「ツイッター」で毎日拾ったタバコとゴミの数などを報告していますが、なかなか減らない現状を憂えています◆この問題、行政、コンビニなどが、もっと真剣にキャンペーンを行って、減らす努力を行って欲しいと申し入れを行っていますが、道遠しですね◆例年ですと4月から12月まで、毎月上旬には郷里の福島・南会津に行って、近所の方々との懇談や広い庭の雑草刈り、そして日帰り温泉など「田舎暮らし」を楽しんできましたが、今年は、ようやく6月中旬に1週間ほど「晴耕雨読」の日を過ごしてきました。ちょうど庭の「びっくりグミ」が食べごろで、大粒の甘いグミが食べ放題でした。東京の知人宅に、このグミをお土産に持参したところ大好評でした。(文)

今月は「無煙賛歌」を休ませて頂きました。よろしくご了解をお願いします。(編集部)